

2017 年 12 月 13 日

月面資源開発ビジネスの実現を目指す宇宙ベンチャー 株式会社 ispace への出資について

- ・ 月面資源開発ビジネスを手掛ける国内唯一のベンチャー企業へ出資
- ・ アカデミアとの連携、民間事業会社の資金提供も含めた多層的な支援
- ・ 国内有力宇宙ベンチャーを積極的に支援し、宇宙産業での国際競争力を強化

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、このたび、共同投資家^{*1}とともに、月面資源開発ビジネスの実現を目指す宇宙ベンチャーである株式会社 ispace（本社：東京都港区、代表取締役：袴田武史、以下「ispace」）の第三者割当増資を引き受け、同社事業の成長資金として 35 億円を上限とする出資を決定しました。

^{*1}：共同投資家：日本政策投資銀行、東京放送ホールディングス、コニカミノルタ、清水建設、スズキ、電通、リアルテックファンド、KDDI、日本航空、凸版印刷、スパークス・グループ

月面資源の開発や資源を利用した新たな産業は、2030 年以降爆発的な発展を遂げると言われています。しかしながら、本格的な活用の前段階として、事前に月面の状況把握や資源の種別、量、採掘条件等を確認しておくことが必要不可欠です。そのためには月面輸送や資源探査を先行して実施する必要性があり、現在は、その技術開発・実証段階にあります。

ispace は、月面資源開発ビジネスを手掛ける国内唯一のベンチャー企業であり、ローバー（月面探査車）とランダー（月着陸船）という 2 つの製品の開発を行っています。ispace が運営するチーム HAKUTO のローバーは、小型軽量な世界最小のローバーであり、人類初の月面探査レース「Google Lunar XPRIZE^{*2}」において、モビリティ部門で中間賞を獲得しています。また、小型・軽量のランダーは、東北大などアカデミアでの超小型衛星開発技術をベースに国内外の大手民間事業会社とも共同で開発を進めています。

ispace では、これら自主開発するランダーとローバーを用いて、月面への輸送サービス、月面探査から得た様々な科学技術データ、画像・映像データの販売、月面での広告などを柱にしたビジネスモデルを想定しています。既に、海外を含めた複数の国家機関・研究機関とも事業に関する覚書を結ぶなど注目されており、さらに、民間企業からの具体的なアプローチもあり、将来、有力な産業として成り立つことが確実視されています。

今や、海外では「宇宙」は間近に迫った新規産業の場として捉えられ始めており、国を挙げて宇宙産業の育成に取り組んでいます。そのような情勢の中で、ispace は、月面資源開発 ビジネスを手掛ける国内唯一のベンチャー企業であり、INCJ としては、このような宇宙ベンチャーに資金を提供し、世界に存在感を示す実績を残すことは、我が国の宇宙産業にとって極めて重要であると判断しました。また、ispace

では、全国各地の中堅中小企業の匠の技術を積極的に活用するなど、サプライヤーの開拓や協業も行っており、これらの企業が将来グローバルで通用する宇宙資源探査・開発産業の先端要素技術プレイヤーになることも期待されています。

INCJ では、宇宙産業を重点投資領域の一つとして捉えており、「アストロスケール」、「ダイナミックマップ基盤」、「QPS 研究所」など、宇宙関連分野への投資も積極的に行っています*3。

*2 : 【Google Lunar XPRIZE について】 <http://lunar.xprize.org/>

Google がスポンサーとなり、XPRIZE 財団によって運営される、民間組織による月面無人探査を競う総額 3,000 万ドルの国際賞金レースです。ミッションは、月面に純民間開発の無人探査機を着陸させ、着陸地点から 500m 以上走行し、指定された高解像度の動画や静止画データを地球に送信すること。1 位のチームには賞金 2,000 万ドル、2 位のチームには賞金 500 万ドルが与えられます。SpaceIL（イスラエル）、Moon Express（アメリカ）、Synergy Moon（国際）、Team Indus（インド）、HAKUTO（日本）の 5 チームがファイナリストとして、レースの最終フェーズに参加しています。HAKUTO は、株式会社 ispace が運営しています。

*3 : 2017 年 12 月 25 日修正

株式会社 ispace について

設 立	2010 年 9 月
所在地	東京都港区
代表者	袴田武史 代表取締役 CEO
URL	http://ispace-inc.com/jpn

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。2017 年 12 月に、シリーズ A 国内過去最高額（2017 年 12 月 13 日時点）となる 101.5 億円の資金調達を実施し、日本初民間開発の月着陸船による「月周回」と「月面着陸」の 2 つのミッションを発表。JAXA、ルクセンブルク政府とも月資源開発で連携。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動。日本から唯一月面探査レースに参加するチーム「HAKUTO」の運営を行っている。

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7202 URL : <http://www.incj.co.jp/>

[別添]

株式会社産業革新機構

新規支援決定案件の概要

1. 対象事業者

- ・ 事業者名: 株式会社 ispace
- ・ 事業内容: 月面輸送・資源探査ビジネス
- ・ 業界・分野: 産業機械
- ・ 事業化ステージ: アーリーステージ

2. 支援決定概要

- ・ 支援決定金額: 35 億円(上限) 実投資額: 35 億円
- ・ 支援決定公表日: 2017 年 12 月 13 日
- ・ 投資ストラクチャー図: 別添

3. 投資意義

＜社会的ニーズへの対応＞

- ・ 月面資源探査・輸送事業は、急成長が期待できる市場であり、裾野の広い新産業創出に繋がると見られており、そのような市場において日本発のベンチャーが主導権を握れる可能性がある。
- ・ INCJ によるリスクマネー供給と呼び水効果により、宇宙資源開発における先行者利益の獲得、ベンチャーと大企業・中小企業との連携、アカデミア技術の事業化支援等への繋がりが期待される。

＜成長性＞

- ・ 月面資源探査・輸送事業を日本企業が確立することで、これまで得られなかった様々なデータの取得が可能となり、宇宙空間での資源開発やコア技術開発の進化に繋がる。同時に、宇宙空間という特殊環境下での基礎研究や実証実験の実現により、副次的産業の拡がりも期待できる。

＜革新性＞

- ・ アカデミアと民間事業会社とが緊密に連携することにより、革新的な世界最軽量、最小のローバーや最軽量クラスのランダーを開発。高効率で優位性の高いローバー / ランダーを一体として輸送・探査事業に提供できる、稀有な宇宙ペイロードシステムプラットフォームとなり得る。

4. 主務大臣(経済産業大臣)意見

本事業は、我が国が有する超小型衛星技術等を活用した月面資源探査・輸送ビジネスの実現に繋がるものであり、今後成長が見込まれる宇宙資源開発産業において、我が国の国際競争力強化に繋がることから、意義のあるものと考えられる。

産業革新機構は、日本国内で着実に研究開発が行われ、我が国宇宙産業の裾野拡大に資するよう、適切な支援の実施に努められたい。

また、将来、保有する株式の譲渡等を検討する場合には、経済産業省と緊密に連携しつつ、我が国宇宙産業の発展に資するよう、処分方法を検討されたい。